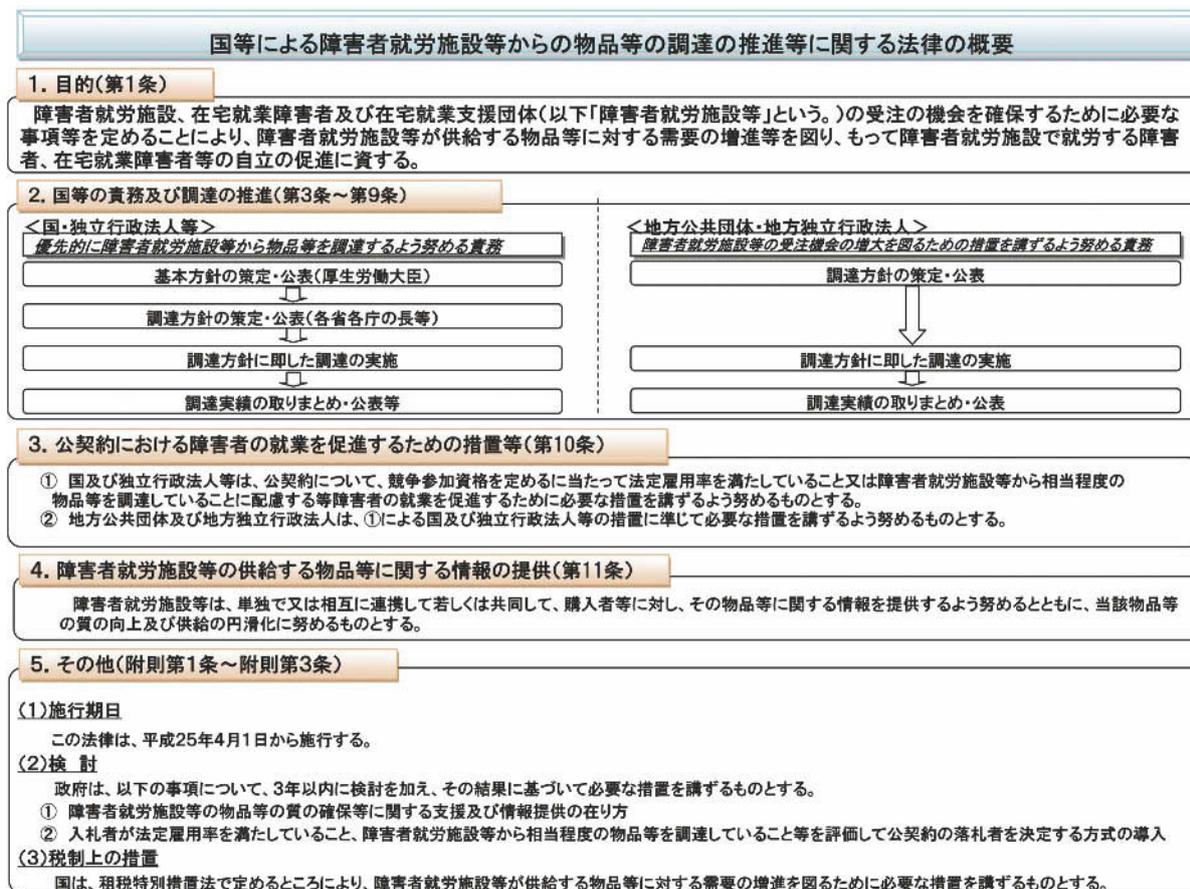


■ 図表2-20 国等による障害者就労施設等からの物品等の調達の推進等に関する法律の概要



先を選定して実施することにより、これまで以上に障害のある人の態様・希望や企業ニーズに対応した効果的・効率的な職業能力開発を推進している。

カ 発達障害のある人に対する職業訓練

平成20年度から、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が運営する吉備高原障害者職業能力開発校及び中央障害者職業能力開発校において、発達障害のある人を対象とした職業訓練を本格実施するとともに、他の障害者職業能力開発校においても、発達障害のある人の入校促進を図った。

特に、平成19年度から実施している都道府県立の一般公共職業能力開発施設における発達障害のある人を対象とした訓練コースについては、24年度は5府県で実施し、職業訓練の受講機会の拡大を図った。

キ 障害のある人の職業能力開発に関する啓発

① 全国障害者技能競技大会（愛称：アビリンピック）の実施

全国障害者技能競技大会は、障害のある人の職業能力の開発を促進し、技能労働者としての自信と誇りを持って社会に参加するとともに、広く障害のある人に対する社会の理解と認識を深め、障害のある人の雇用の促進を図ることを目的として、アビリンピックの愛称の下、昭和47年から実施している。

平成24年度には、長野県で第33回大会が開催（10月20日～22日）された。

② 国際アビリンピックへの日本選手団の派遣

国際アビリンピックは、昭和56年の「国際障害者年」を記念して、障害のある人の職業的自立意欲の増進と職業技能の向上を図るとともに、事業主及び社会一般の理解と認識を

深め、更に国際親善を図ることを目的として、昭和56年10月に第1回大会が東京で開催され、以降おおむね4年に1度開催されている。

平成23年9月には、韓国（ソウル市）で第8回大会が開催（9月25日～30日）され、日本からは16種目の職業技能競技及び職業技能基礎競技に計31名の選手が出場し、金賞を2人、銀賞を4人、銅賞を7人が獲得したほか、5人が特別賞を受賞した。

(11) 雇用の場における障害のある人の人権の確保

全国の法務局・地方法務局及びその支局では、雇用の場における障害のある人に対する差別的取扱い等の人権侵害の疑いのある事案を認知した場合には、事案に応じた適切な措置を講じるなどして、人権侵害による被害の救済及び予防を図っている。

第33回全国障害者技能競技大会

全国障害者技能競技大会（アビリンピック）は、障害者が技能労働者として社会に参加する自信と誇りを持つことができるよう、その職業能力の向上を図るとともに、広く障害者に対する社会の理解と認識を深め、その雇用の促進と地位の向上を図ることを目的として開催されている。

平成24年度は、10月20日から10月22日までの3日間にわたり、長野県長野市において第33回全国障害者技能競技大会が開催された。

大会には、技能競技23種目に全国から302人の選手が参加し、日頃培った技能を競いあうとともに、雇用拡大が期待される

「IT」、「クリーニング」、「ベッドメイキング」の3職種による技能デモンストラーションが実施された。

会場では、第33回アビリンピックの開催に併せて、障害者の雇用に関わる展示、実演、体験などの複合的なイベントである「障害者ワークフェア2012」が同時開催され、大会期間中は、約43,000人（障害者ワークフェア及び長野県等が主催する併催イベントへの来場者を含む）を超える方々が来場し、盛大な大会となった。

